

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月 ~2日	10月 ~9日	10月 ~16日	10月 ~23日	10月 ~30日	11月 ~6日	11月 ~13日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	99	99	47	48	28	14	17	18	22	13 (14)	31
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	90	30	53	40	13	4	10	11	6	9	18
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	1	1	10	2	0	1	0	0	1	0	0	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	3	16	12	12	1	7	3	2	1	1	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	22	26	19	13	7	2	3	5	3	1 (2)	5
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	9	17	18	15	7	0	4	2	3	4 (5)	6
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	3	4	1	5	0	1	1	1	1	1	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5	7	3	0	0	0	1	1	1	0
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第45週(11月7日~11月13日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	6	結核	6	2		1		2	1	
三類	2	腸管出血性大腸菌感染症	2		1					1
四類	4	つつが虫病	4	1				3		
五類	8	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	4	2						2
		侵襲性肺炎球菌感染症	2		1					1
		梅毒	2					1		1
新型インフルエンザ 等感染症	15,791	新型コロナウイルス感染症	15,791	2,053	1,701	1,498	635	6,584	1,000	2,320

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第45週に6,584件の報告があり、増加が続いています。新規感染者数は全国的に増加しており、今夏のような感染拡大につながる可能性があります。

マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密など基本的な感染予防対策を心がけましょう。また、これから寒くなると、屋内で過ごすことが増えますので、「換気の悪い密閉空間」にならないよう、こまめな換気を心がけましょう。

2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

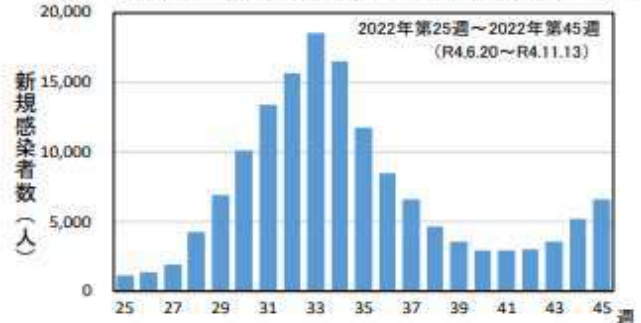
定点当たり1.23人と増加傾向です。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、2～5日の潜伏期を経て、突然の発熱、のどの痛み、全身倦怠感、莓舌などの症状が現れます。感染経路は、飛沫感染や細菌の付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染です。患者との濃厚な接触を避けることや手洗いなどの感染予防対策が有効です。

3 つつが虫病

3件の報告がありました。つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシ(ダニの一種)に吸着されることにより感染する感染症で、例年、11～12月にかけて報告数が多くなっています。山や草むらに入るとき、農作業を行うときは、長袖・長ズボン、帽子、手袋などを着用し、肌の露出を少なくしてダニ類の付着を防ぎ、屋外活動後は入浴してダニ類が付着していないかを確認しましょう。

【参考】つつが虫病について(厚生労働省) <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000173061.html>

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	1	0.03	0.48		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.06	
小児科	咽頭結膜熱	2	0.09	0.29		眼科	RSウイルス感染症	5	0.23	0.33	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	27	1.23	1.68		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	76	3.45	3.74		眼科	流行性角結膜炎	4	0.50	0.68	
	水痘	-	-	0.32		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	7	0.32	0.83			無菌性髄膜炎	-	-	0.06	
	伝染性紅斑	-	-	0.07			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.11	
	突発性発しん	5	0.23	0.39			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	4	0.18	0.31			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	↔	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	103	10歳代、60歳代
4	つつが虫病	3	3	40歳代、60歳代、70歳代
5	梅毒	1	284	20歳代